

第8回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録要旨

○日 時：令和6年2月15日（木） 9：50～12：00

○場 所：八幡市役所本庁舎 5階 会議室5-2

○傍聴者：なし

1 開会

2 議事（協議・報告）

（1）総合戦略の概要及び効果検証について【資料1、参考資料】

→事務局から第2期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要、同戦略と第5次八幡市総合計画との関係性、効果検証にあたり懇談会からいただきたい意見のポイントについて説明。

（2）総合戦略の事業進捗状況について【資料2】

→事務局からプロジェクトごとに事業進捗状況の概要について説明後、意見交換。

◆プロジェクト1 子どもが輝く未来の創生 「やわた子ども未来プロジェクト」

<委員>

小中学生の学力は概ね計画当初値を上回っているが、中学3年生の数学と不登校については課題となっている。特に中学3年生の数学については前年度より7%下がっており、分析が必要。

<事務局>

学力向上については、中学校以前の段階から対策が必要と考えている。当初は中学生を対象としていたスタディサポート事業を小学4年生以上に拡大したほか、令和5年度からは「地域の寺子屋事業」を実施し、家庭での学習環境づくりに取り組んでいる。

<委員>

小学生において計画当初値を上回っているのは、GIGAスクール等のICTの取組がなじんできた結果ととらえてよいか。また、不登校については、外国籍の生徒が増えていることも影響しているか。

<事務局>

GIGAスクール構想については、タブレット端末に「ドリルパーク」等を導入しており、AIを活用して児童のつまずきを分析し、個別最適化された問題を出すなど、学力向上に一定寄与していると考えます。

不登校については、手元に児童生徒に関する資料がないが、保育園や幼稚園でも外国籍の児童が増えており、コミュニケーションにおいて言葉の壁が大きいと聞いている。

<委員>

教育委員会の対応になると思うが、日本人だけでなく外国籍の児童・生徒に向けた不登校の対策も必要である。

<事務局>

コロナ禍で不登校が全国的に増えている。八幡市は元々多かったため数値としては大きいですが、全国的な伸び率と比較すると小さい。以前から教育支援センター等不登校児童の受け入れ場所をつくるなど対策を進めていたため、元々不登校と出現率が高かった。

<委員>

「配慮が必要な子どもへの支援体制の整備」が掲げられているが、身の回りでは、障がいを持つ子が希望する小学校への入学が難しく、支援学校への入学も通学等の問題があるため、インクルーシブ教育が充実している遠方地域への転居を検討されている家庭もあり、計画の内容と現実とのギャップを感じる。さらなる支援体制の整備が必要だと思う。

<委員>

新・放課後子ども総合プランの取組があるが、大阪府内では、放課後におけるスポーツ指導や遊びの場の提供など、放課後における児童育成の取組が充実しているように思う。八幡市においても放課後の取組を充実させることはできないか。

<事務局>

大阪府内では、総合型地域スポーツクラブといった、地域の担い手による地域ごとのスポーツクラブが盛んである。八幡市においては、市直営で「放課後児童健全育成事業」や「やわた放課後学習クラブ」に取り組んでいるが、スポーツに限らず学習も含め、地域の担い手の確保が課題となっている。また、子どもわくわくスポーツ教室といった取組もあるが、活動日が土日であったり、場所も1箇所限定されている状況。新・放課後子ども総合プランは、学童へ通っていない子も含めて、まずは学習面を充実させようというのが当初の考え。スポーツについても担い手を見つけながら検討を進めていく形になる。

<委員>

校内で遊ぶには時間等に限りがあり、休み時間にできなかったことや遊び足りない気持ちを満たす時間、場所が必要ではないか。低学年は、一度帰宅すると集まるのが難しい。学習だけでなく、放課後に子どもたちが活動できる場を充実させることも「生きる力」をはぐ

くむことにつながるのではないか。

<委員>

放課後に有志の先生で陸上教室を実施している市内の小学校があり、大会でもいい成績を収めているが、この先生が転勤となった場合、この取組はなくなってしまう。

<委員>

市全体として、地域の担い手確保が課題となっている。現状は土日に限定されている取組みも平日に活動できるよう前向きに検討を進められたい。

<委員>

LGBT の子どもの自殺率が高いという研究結果もあり、何らかの支援が必要であると考えている。これは少数の子どもたちだけの問題ではなく、とりまく子どもたち全体の問題として捉えることで、全ての人の生きやすさにつながるのではないか。また、周辺自治体ではパートナーシップ制度の導入が進んでいる。この制度があることで、LGBT の子どもたちも将来に夢をもてるのではないか。

<委員>

行政と地域の方との連携は、すぐに実施できるものではなく、日頃から相互の関係づくりに取り組む必要がある。不登校児童の居場所がないという状況にならないよう、地域と足並みをそろえて取り組んでほしい。

◆プロジェクト2 健幸都市の創生 「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<委員>

SWC-AI 運用の事業費が 6,380 千円となっているが、これはデータ分析にかかる費用か。また、国の交付金がなくなった場合の事業の継続については、どのように考えているか。

<事務局>

データ処理・分析やシステム利用料に係る費用であり、そのデータ分析に基づいて、地域ごとの疾病の特長にあわせた健幸マルシェ等の健幸イベントを実施している。また、スマートウェルネス事業全体を通じて、健康づくり事業に取り組んでいる方とそうでない方とでは医療費に年間 20 万円ほど差が出ており、国の交付金がなくなった以降も医療費抑制のために必要な事業であると考えている。

<委員>

取組の効果を維持できるよう、交付金終了後の持続可能性を十分に検討されたい。

<委員>

体を動かすことが大変な人もいる。運動に限らず、歌やボイストレーニングなども健康づくりに良いのではないか。

<委員>

公園の維持管理なども併せて取り組まれないか。市民スポーツ公園利用者数は増加しているが、市内・市外の内訳や年代等の分析が必要ではないか。

<委員>

コミュニティ運動教室に関し、八幡市は市民サポーター自身は意欲的な方が多いが、定期的に利用でき、ある程度の人数を収容できる施設が少ないことが課題となっている。サポーターが増えれば震災時の健康被害抑制にもつながり、地域の安心・安全につながると考える。

◆プロジェクト3 観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」

<委員>

観光政策の目指す方向が観光客数の増加からサステイナブルツーリズムに変わってきている。現在のKPIは人数と消費額を指標としているが、より広い視点で考える必要がある。インバウンドについても人数の増加だけを指標とするのではなく、どのようなサービスを外国人に提供するのか、外国人の満足度等を考えた指標の設定が必要となってきた。

<委員>

八幡の食をもっとアピールしてはどうか。

<委員>

いちご狩りとさくら鑑賞のセットが人気であり、外国人を対象としたモニターツアーも実施しているため、今後成果が出てくると思う。

<委員>

魅力をもっと深掘りし、基本目標に工夫を加えることが必要。新規事業として男山魅力探求発信事業があるが、子どもと自然が親しむ取組など、観光客だけでなく生活も楽しめる場として市民も対象に含めた取組ができないか。

<事務局>

本事業については、観光向けで記載しているが、散策ルートが出来上がれば、観光客だけでなく、市民にとっても行ってみたい場所になると考えている。ただし、男山散策路周辺は土地所有者が複数いるため、一体的な管理や活用が困難であることが課題となっている。大

阪・関西万博を見据えた舟運の取組もあり、川辺と山といった自然環境を、市民や観光客に向けてどのように活用していくか検討を進めている。

<委員>

市内に宿泊施設はあるのか。

<委員>

旅館橋本の香は宿泊可能である。建築を学ぶ学生に人気であり、先日テレビでも取り上げられた。しかし、そのほかの宿泊施設については撤退していきっており、宿泊先の相談があった際は市外の宿泊先を案内しているのが現状である。

<委員>

ヤワタカラは良い取組だと思うが、今後のバージョンアップについてはどうか。

<事務局>

地域で親しまれているものを掘り起こし、八幡の特産品として一括して PR、物販を実施してきたところ。ふるさと納税の返礼品としたことで寄付額についても成果が出始めている。しっかり PR し、選んでもらえるものづくりを進めていく。

◆プロジェクト4 みんなで創る多機能な力を有したまちの創生「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」

<委員>

今後ますます市内に居住する外国人が増えていくと思われる。ただ受け入れるだけでなく、受け入れ後の方策を考える必要がある。

<事務局>

日本語教室や日本語指導ボランティアの養成、男山地域再生事業と併せた交流イベントなど、外国人との共生に力を入れている。

<委員>

市民と外国人との交流事業の推進とその KPI の設定が望まれる。

<委員>

技能実習生については、住民登録がないなど様々なトラブルも想定し対応する必要がある。

<事務局>

外国人の事情によって対応が異なると考えており、技能実習生については、企業との関係性ができていればつながりを保てるが、そうでない方については難しい部分があり、現状では地域の中で市民と外国人との共生を目指す取り組みを進めているところである。

<委員>

様々な暮らしの課題について状況把握を行うなど、総合的な対策に取り組まれない。

<委員>

まちの魅力度の順位が下がっていることについて、どのような要因が考えられるか。

<事務局>

観光の面では指数が上がっているが、全国的にも上がっており順位の上昇につながらなかったことや知名度の低さなどが考えられる。知名度の向上が大きな課題である。

(3) 令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の効果検証について【資料3・参考資料】

→事務局から参考資料及び資料3により概要を説明後、意見交換。

<委員>

八幡フェスタなど、良い取組だと思うが、交付金がなくなると実施が難しくなるのでは。

<委員>

令和6年3月に開催する分については国からの交付金がなく、市と府から補助を受け開催している。

<委員>

今後も必要な施策は、一般施策に移行するなどしていく必要がある。来年度もこの交付金は続くのか。

<事務局>

今年度はいただいている。令和6年度については未定。

3 その他

→いただいたご意見や評価について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨

説明、了承。

4 閉会